

2026年度事業計画

【 総務 】委員会 委員長【浅田 素之】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
定期表彰	インクルーシブな取り組みを含むセーリング活動の表彰	顕著な活動の認知度向上	表彰式の開催	2027年1月
ガバナンスコード対応	規程・基準の継続的見直し コンプライアンス委員会・利益相反管理委員会の実施	JSAFの運営、実施体制のルールに関する整備	ガバナンスコード、規程、基準等	通年
レース等行事の公認・後援検討	JSAF公認・後援レースの検討実施（レースマネジメント）	公認・後援レースへの保険付保等、安全確保	公認・後援レースの開催	通年
コンプライアンス研修	会員、特に各団体リーダー向けの研修実施	会員全体のコンプライアンス意識向上	研修の開催	2027年2月

【 財政 】委員会 委員長【松田 一隆】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
1. 適切な支払・立替手続きの遂行	<ul style="list-style-type: none"> 各専門委員会から日々上がってくる支払・発注の申請の内容確認。 事務局と協力して支払、会計処理等に関する事務手続きの簡素化と改善。 源泉徴収関係の確認、添付された証憑の妥当性についての検証を継続。 新設の委員会やプロジェクトに対する会計・支払面の手続きに関する問い合わせ対応。 	公益財団法人に期待されるコントローラーシップの維持・向上	各種外部検査における指摘ゼロ	通年
2. 適切な予算執行と会計報告の推進と管理	<ul style="list-style-type: none"> 事務局のほか関連する専門委員会とも連携し、予算・決算に関し、評議会・理事会等への報告の適時性と透明性の確保を向上させる。 年間方針や重点施策に基づき各委員会が推進する事業計画の進捗に応じた円滑な予算執行に努める。 足元の収支状況についての情報提供を促進。 	事業計画に基づいた事業・予算の執行状況のモニタリング強化	評議会・理事会向け報告	通年
3. 健全な財政基盤の確保	<ul style="list-style-type: none"> JSAFとしての経営戦略に基づき、会費・寄付金・賛助金等の収入ソース拡大の検討がなされる中、事務局及び総務委員会等関連する専門委員会とも連携し、財政面での管理体制の整備を進める。 会費に関する加盟団体等とお金の流れについては検討を進める。 収支バランスの安定化に貢献する各委員会の取り組みのサポートを強化する。 	公益財団法人に期待されるコントローラーシップの維持・向上	管理ツール整備	通年
4. 会計経理業務のガバナンス強化	<ul style="list-style-type: none"> 事務局における経理会計事務の体制強化を支援し、帳票類の整備を漸進させる。 公益財団法人に期待される会計・経理態勢の理解に努め、ガバナンスコードに沿って、態勢整備を行う。 業務委託先の選定方法、業務委託における契約書類締結要否の確認、支払申請に関するフローを円滑に運営する。 公益財団法人に求められる会計経理手続きの理解に努め、必要な変更を実務面に反映させる。 	公益財団法人に期待されるコントローラーシップの維持・向上	試算表、マニュアル類等の整備	通年

【 事業開発 】委員会 委員長【 平松 隆 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
JSAF SHOPの運営管理	JSAF SHOP受注品の発送管理、在庫管理。並びにSHOP画像の更新と、登録者へのタイムリーなメッセージの配信。	JSAFロゴ入りグッズの販売を通して、会員のJSAFへの帰属意識の向上と新規会員獲得の一助とする。	SHOPの購入者数の10% アップ。 目標年間延べ220件	年間
JSAF SHOP販売商品の拡充	魅力あるJSAFロゴ入り商品の開発。 具体的な新商品は現在検討中。	限られたマーケット（JSAF会員+セーリングファン）に対応した新規商品を随時販売し、売り上げのアップを図る。	SHOP売り上げの10%アップ。 目標年間200万円	年間

【 広報 】委員会 委員長代行【 萩原 ゆき 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
J-SAILING発送費	J-Sailing作成、発送			
デジタルJ-Sailing作成	デジタル版J-Sailing作成、発行	効果的広報業務の推進・複数発刊		2026年3月
JSAFサーバー・公式ウェブサイトの保守管理	JSAFホームページ維持、更新	JSAFウェブサイトの効率的管理	サイトアクセス数	通年
JSAFサーバー・公式ウェブサイトの保守管理	JSAFホームページ維持、更新	JSAFウェブサイトの効率的管理	サイトアクセス数	通年
西朝子氏委託事業	JSAFホームページ維持、更新（掲載コンテンツ作成）	広報業務全般の業務委託	タイムリーなJSAFホームページ更新	通年
JSAFホームページコンテンツ拡充	JSAFホームページ掲載コンテンツの継続更新、拡充			
取材費	取材活動経費	大会開催地等での取材活動、外部委託		通年
YMファンページ作成	YMファンページ作成			
強化選手関連PR費	強化選手関連PR費（壮行会、報告会開催）			
On Breeze作成	On Breeze作成、更新	外洋系団体向け広報活動	サイトアクセス数	通年

【 国際 】委員会 委員長【 堀川 郁子 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
国際機関ポスト獲得・国際会議派遣	・ World Sailing のミッドイヤー会議、年次会議及び臨時会議等に委員等を派遣する ・ World SailingやASAFにおける日本のプレゼンス向上	・ 委員の派遣 ・ WSでの年次総会及び臨時会議等における議題の把握 ・ 上記議題におけるJSAFその他国内のステークホルダーのポジション確認・生成・発信		2026年11月
スポーツ外交	セーリング競技の普及及び普及活動を通しての関係性構築	・ セーリング競技の普及及び普及活動を通しての関係性構築	・ 助成金の獲得 ・ コーチ派遣または、選手・コーチの招へいの実施	2026年中
アジア大会サポート	アジア大会におけるVIP対応	アジア大会への貢献。ASAFでの関係構築。	ASAF	2026年9月から10月
AF総会開催	ASA General Annual Meeting 開催	ASAFへの貢献	会議の成功	2026年10月

【 環境 】委員会 委員長【 大垣 俊朗 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
環境キャンペーン（全日本選手権への補助事業）	全日本大会へのサステナビリティ補助金事業	・サステナビリティ活動の実践 ・SNS等での発信による外部への訴求 ・スポンサー企業の支援継続および新規スポンサー企業の開拓	・SNSの発信数（シェア数、いいね数合計2,000件）	通年
サステナビリティキャンペーン補助金事業	サステナビリティに関する個人・団体の取組（学びや意識・行動変容・共創に向けたトライアル支援）への補助金事業	・サステナビリティの意識・行動変容に向けた、他団体へのナレッジになるような取組を蓄積・発信するために、トライアル事業を支援 1) 地域での団体・自治体・企業との連携 2) 複数の大学ヨット部の連携 3) 水域（県連）の活動 4) 特別加盟団体の活動	・助成数4件	通年
サステナビリティイベント企画、参加	サステナビリティに関するイベント等での展示・講習・	・海洋環境の現状の把握 ・サステナビリティの意識の普及、向上 ・広くセーラー以外の一般市民も巻き込みサステナビリティを切り口にセーリングの普及にも寄与。	・参加数5件	通年
使い古したセールの有効活用（Workshop、バッグ製作販売）	・使い古したセールによるグッズ制作案公募・トライア	・環境意識の向上 ・脱炭素化に寄与 ・JSAFのブランド化 ・広く一般市民への普及	・使い古したセールによるグッズ制作案公募・トライアル実施 ・ワークショップ実施数5件	通年
サステナビリティインパクトに関する調	セーラー個人・大会のサステナビリティ貢献（プラスチ	・サステナビリティ貢献の評価・可視化 ・サステナビリティ活動の促進	・評価方式の策定 ・大会のインパクト評価トライアル	通年
ナレッジの蓄積・展開	加盟団体のアンケートによる現状・課題分析、先進事例	・サステナビリティへの加盟団体等の取組の普及・定着	・事例収集・発信数30件	通年
サステナビリティレポート作成	環境貢献活動をとりとめレポート発信	・活動の可視化・評価・スポンサー、一般への訴求・表彰などの獲得		通年、3月発行
サステナビリティ・アンバサダー事業	連盟外部のアンバサダー委嘱を行い、環境委員会活動を	・一般への訴求		通年
アクティベーション事業の開発	新たなスポンサー獲得のためのメニュー開発・実施		・明治安田生命、水中ドローン	通年
委員会人材確保育成	新たな委員会委員確保・育成	2026年度委員長交代を目指すもの	・新規委員2名（20-30代）・次世代副委員長の選	通年
サステナビリティ広報活動	SNS発信の強化	サステナビリティ活動ファン層獲得のため	・ビュー数等2024年度比率2倍	通年

【 レディース 】委員会 委員長【 長田 美香子 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
チャイルドルーム開設	未就学児の子どもを持つ女性選手・役員・指導者が、大会に安心して参加できることを目的としチャイルドルームを開設する	女性支援、ジェンダーフリーへの取組、女性のレース・運営への参画支援	利用者数	2026年5月 2026年8月 2026年9月 2026年10月
WSステアリングザコース	ハンザ体験会	普及推進、女性参画支援	参加者数	2025年6月
生理用品配布	女性が参加する大会で生理用品を配布し、自分の身体への正しい知識や健康への意識を啓発する	女性支援、女性セーラーの健康意識向上への啓発	配布人数	通年
国スポ講演会	国スポ開催時に講演会開催	女性支援、女性セーラーの健康意識向上への啓発	参加者数	2026年10月
情報交換会	広く会員やヨット関係者を募り、それぞれが抱える課題を共有しその解決につながる情報の意見交換	女性セーラーを取り巻くセーリング環境の向上インクルーシブなセーリングへの取り組みの推進	会場参加者数 リモート参加者数	2027年2月
女性リーダー育成	女性リーダー・コーチアカデミー等の講習会に委員が参加	次代への継承に向けた組織体制強化、人材育成	他委員への情報の共有	通年
マッチングシステム構築	加盟団体、特別加盟団体とのネットワーク作り	卒業する学生が継続してセーリングを続けるための県連や艇種別協会とのマッチング	登録団体、登録者数	通年

【 アスリート 】委員会 委員長【 吉田 愛 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
オンラインでの講習会の実施	選手の競技力向上	トップ選手との交流による知見拡大	参加者50人	2025年中
各種目、カテゴリーのトップ選手の意見	セーリング界の意識向上、組織改革	アスリートファーストの円滑なレース		2025年中
セーリング選手のための障害予防とヘル	国スポでの講演会実施	医療者からのアドバイスを聞き、より良いパフォーマンスに繋げるため	参加者100名	2025年9月
情報交換会	女性のスポーツキャリア促進	JSAF女性のために互いの連携を深め、共に未来を拓く女性のための情	参加者50名	2025年2月

【海 その愛基金 海洋環境グリーンプロジェクト推進】委員会 委員長【 加山 雄三 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期

【 ルール 】委員会 委員長【 藤井 裕文 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
事業1) ルール関連資料の翻訳・発行	競技規則であるWorld Sailing規程の一部、付則および試行規則、競技規則の公式解釈であるケース・ブック、コール・ブックおよび規則42解釈、Q&A、ラビッドレスボンスコール並びに競技規則の緊急改定など、World Sailingの発行するルール関連資料とその追加・修正を都度、日本語訳して展開する。	セーリング競技の根幹である競技規則と規則解釈を日本語訳して国内セーラーに提供	World Sailingによる公開から日本語訳公開までの期間、翻訳の正確さ、日本語としての分かり易さ。	通年
	World Sailing発行のジャッジ/アンパイア向けマニュアル等とその追加・修正を都度、日本語訳して展開する。	国内ジャッジ/アンパイアのレベルの維持・向上	World Sailingによる公開から日本語訳公開までの期間、翻訳の正確さ、日本語としての分かり易さ。	通年
事業2) 国際ジャッジ・アンパイアの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・国内IJ/IU候補者に海外レース等を経験させるための機会獲得支援と渡航費補助。 ・海外で開催されるIJ/IUのセミナー/クリニックへの参加のための渡航費補助。 ・国内で開催される国際大会へのアジア諸国のIJ/IU候補者の来日支援のため渡航費補助。 ・国内で開催される国際大会において、主催団体からJSAFによるジャッジ/アンパイアの推薦枠が与えられた場合に、国内IJ/IU候補者から選考して推薦。 ・JSAFからWorld Sailingに推薦するIJ/IU候補推薦者選定のためのIJ/IU候補推薦WGの開催。 ・World Sailingの委員にJSAFがノミネートして選任された1名をWorld Sailing年次総会に派遣。 ・World Sailing IJセミナーを国内にて開催する。 ・IJ育成プログラム（英語によるルール講習会）の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人IJ/IUの継続的輩出によるJSAFの情報収集力の維持・向上、JSAFとしてのセーリング界への貢献、JSAFの世界での地位向上 ・日本人IJ/IUのスキルの維持、向上 ・特にアジア諸国など海外のジャッジ/アンパイア育成への貢献、JSAFの世界での地位向上 ・World Sailingの意思決定と活動に対するJSAFとしての貢献、JSAFの世界での地位向上 	日本人IJ/IUの新規認定1人/2年＝現IJ/IU人数5名の維持（平均資格維持期間を平均4期16年間と仮定）	通年
事業3) ナショナル・ジャッジ/アンパイア講習会の開催	新規A級ジャッジ認定講習会・試験を国スポ開催予定地など2-3箇所開催。	ナショナル・ジャッジの養成、国内レースの質の維持・向上	新規認定15名	未定
	新規アンパイア認定講習会・試験をアンパイア制レースの大会の機会を利用して（水上実技を必要とするため）1-2回開催。	ナショナル・アンパイアの養成、国内レースの質の維持・向上	新規認定3名	未定
	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャッジ・クリニックを全国5箇所程度で開催。 ・B級ジャッジのためのステップアップクリニックを全国5箇所程度で開催。 	ナショナル・ジャッジの養成、国内レースの質の維持・向上	受講者数150名	2027年1月～3月
事業4) ナショナルB級ジャッジ認定	・新規B級ジャッジ認定講習会・試験を実施する加盟団体・特別加盟団体に、試験問題と講習補助資料を提供。	初級ジャッジを養成する加盟団体・特別加盟団体の支援、国内レースの質の維持・向上	新規認定100名	通年
事業5) 競技規則の普及	ルール検定制度の構築、試験問題の作成や受験システムの開発、運用開始。初級試験（ルールクイズ）の試行結果を検証し次の取り組みを検討する。	ルールの知識を習得したことが個人で確認できる仕組みを会員に提供	受験者数100名	通年
	指導者・選手向けルール講習会の開催	知識習得の場の提供 全国10か所程度で開催。 スポーツマンシップ専門講座を開催し、指導者・選手に改めてスポーツマンシップの大切さを認識する場を提供する。	受講者数500名	2027年1月～3月

	ルール解説動画配信	民間動画サイトの協力を得てルール解説の動画を配信することにより、指導者・選手により身近に規則を習得する場を提供する。	ルール解説動画配信を開始	2026年中
事業6) 指導者育成支援	日本スポーツ協会の認定する指導者資格の更新条件であるJSAF主催講習会等としてルール委員会の主催する講習会を提供し、日本スポーツ協会データベースへの登録業務を代行することで、普及指導者委員会の進める事業を支援する。	普及指導委員会が進める指導者育成への貢献	対象講習回数35回	通年
事業7) アンパイア制レース普及支援	・加盟団体・特別加盟団体への働きかけによりアンパイア制レースの計画を促すと共に、アンパイア制大会実施のためのノウハウの提供やアンパイアの紹介などの支援を行う。アンパイア制レース実施大会の継続的開催を計画する加盟団体・特別加盟団体を対象にアンパイアを派遣して派遣費用を補助する。 ・アンパイア・クリニックの開催：選手・アンパイアを対象としたアンパイア制レースのクリニックを開催する。	世界のアンパイア制レース拡大の潮流を捉え、将来にわたって国内でのセーリング・スポーツを振興するため、加盟団体・特別加盟団体とのアンパイア制レース推進のための中長期的なビジョンの共有と連携体制の構築を図る。	アンパイア制大会数増加1大会/4年	通年
事業8) 外洋艇レース普及支援	ローカルクラブレースサポートキャラバン：外洋クラブ（非加盟団体）のクルーザーレースにおいて、標準レースをJSAFからの派遣資格者が助言協力して企画実施したレースを題材に講習、意見交換を行う。併せて、①登録セールナンバーのPR、②ローカルクラブレース現状調査、③JSAF活動の周知等も行う。RMC等関連委員会と連携し、1-2箇所で開催実施。	・外洋クラブ（非加盟団体）を対象とした、フォーマルなレースの啓発、ルール意識向上（安全管理）、JSAFとの親和性醸成。 ・試行実証を踏まえた継続事業化	実施報告書	通年
事業9) カイトボード大会へのジャッジ派遣	カイトボード大会主催団体に働きかけ、ナショナル・ジャッジで構成するプロテスト委員会の任命を促し、ルール委員を大会ジャッジとして派遣する。	・カイトボードに対応できるジャッジスキルをJSAFが獲得する ・カイトボードに対応できるジャッジ養成に向けた計画の立案 ・大会主催団体を含むコミュニティへのフォーマルなレースの啓発	実施報告書	通年

【 レースマネジメント 】委員会 委員長【 京黒 太郎 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
レースオフィサーセミナー	AROセミナー（認定講習・認定試験）の実施 学科試験通過者への実技認定審査の実施	「レースオフィシャルズの養成による国内大会の安全確保と質の維持・向上、レースオフィシャルズの資格認定とスキル維持・向上のための情報展開	受講者80人（4会場）	2026年12月～ 2027年3月
レースオフィサーセミナー	LROセミナー（認定講習）の実施（認定試験なし）	「レースオフィシャルズの養成による国内大会の安全確保と質の維持・向上、レースオフィシャルズの資格認定とスキル維持・向上のための情報展開	受講者100人（5会場）	2026年12月～ 2027年3月
セミナー・クリニック テキスト編集 （講習テキスト編集）	翻訳・学科教材スライド編集・実技認定審査のアセスメント構築	レースマネジメントポリシー等の翻訳を行い、セミナーのスライドを作成する。実技の評価方法、実施内容を定める。	5人	2026年 4月～12月
セミナー・クリニック インストラクター養成 （インストラクター育成）	セミナーのインストラクターを養成し、講習内容の打合わせ実施する （全国のインストラクターの目合わせを行うために必要な措置）	JSAFが主催するROセミナーを全国均質に行うために、教材・講習・評価のポイントなどについてのインストラクター打合会を行う。	インストラクター講師2～3人 インストラクター 10人 事務担当者3人	2026年 4月～12月
国民スポーツ大会の支援・推進	レースマネジメント委員会メンバーを、国民スポーツ大会へ派遣	国民スポーツ大会を支援するために、レースマネジメントに秀でた中央派遣メンバーを派遣し、全国から参加したセーラーに質の高いレースを提供		2026年9月
外洋合同委員会会議	外洋合同委員会会議へ参加し、外洋レース主催ガイドのブラッシュアップを行う。	外洋系ルール・計測・安全に関する情報を専門委員会で共有する	ルール改定年にあたり、ROクリニック・セミナーの外洋艇部分のブラッシュアップ。 次世代委員1名の選出	2027年2月
長距離外洋レース運営協力	外洋常任委員会主催レース・長距離外洋レースへの協力	管理水面で行われないレースに関する情報を整理し、次世代につなげる。RO講習会の外洋部分の向上	外洋常任委員会主催レースへの運営参加・その他 長距離外洋レース主催者への情報提供	2026年4月～
公認・後援審査	公認・後援する大会開催に関する審査	公認・後援等が規則に則り適正に行われているかを審査する。	審査件数60件を予定する	2026/4-2027/3
全国レースマネジメント委員会	年2回の全国委員会の及び随時WEB委員会（小委員会）の開催	レースマネジメント委員会の事業実施に係る方策の協議・報告	レースマネジメント委員の参加	12月・3月 及び随時
マークボット（自走式マークプイ）の運	競技会においてマークボットを活用したレース運営	・マークボットを活用したレースの運営 ・マークボットの管理、会場への手配		随時
国際大会・セミナ・クリニックへの レースオフィサーの派遣事業	国際大会・セミナ・クリニックへレースオフィサーを派遣する	IRO資格取得及び更新要件に国際大会での運営経験が求められるため、国際レース・セミナ・クリニックにレースオフィサーとして派遣し、経験を積んでもらう。	・1名を派遣したい	
国内国際レース調整の実施	・国内国際レース レースオフィサー派遣 ・国内国際レース レースマネジメントレベル維持	・ROレースマネジメント経験値向上		

【 ワンデザインクラス計測 】委員会 委員長【 中村 和哉 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
委員会基本活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定例委員会の開催、および関係会議への出席、HP掲載内容の管理 ・ クラス協会との業務委託契約の締結 ・ 日本セーリング連盟公式計測員規程 改定案の整備 ・ 委員会活動継続のための人材発掘と育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記事業の推進を管理し推進すると共に、委員会全体の課題に対して取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遅滞なく業務を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通年
規則管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計測に関連したWS文書を翻訳し提供することにより計測員の資質向上 ・ 競技者を中心としたクリニックを開催 ・ ERSを含む規則等の翻訳（修正、改定に伴う更新） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ WSから発行される計測関連の情報を提供する。 ・ 改訂された規則の翻訳を行い、公式計測員の更新を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遅滞なく情報提供を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通年
公式計測員管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各クラス協会の新規クラス公式計測員の育成事業支援 ・ 公式計測員養成のための講習会用のテキストの見直しと作成 ・ 公式計測員の新規講習会の実施 ・ 艇種別加盟団体において公式計測委員の設置されていないクラスの支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公平で公正な計測を確保するため公式計測員の資質向上・養成する ・ 現公式計測員のERS改定に伴う更新を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数クラスでの講習会の実施 ・ 原則として現公式計測員全員の更新 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通年
IM及び候補者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ IM推薦、IM候補者への指導・支援 ・ WSの情報を翻訳し提供する ・ 国際レベルの計測技術を維持する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ IMの養成と計測技術の向上を支援する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ IM及び候補者の活動支援を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通年
IHC管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ セールメーカーでのIHCの運用を監査する ・ セールメーカーの要請に基づくIHCステッカーの手配 	<ul style="list-style-type: none"> ・ IHC制度の管理と運用を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ WSの求める品質の維持の達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通年
国スポ等大型大会での計測支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国スポ等の大会装備検査の実施を主催団体と調整し実施の支援を行うとともに、計測員の派遣を行う。 ・ アジア競技大会での大会装備検査の支援を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国スポ等の大型大会における大会装備検査の精度を管理し公平公正な計測を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国スポ、リハーサル大会、アジア競技大会、世界選手権での大会装備検査の実施の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通年

【 医事 】委員会 委員長【 栗原 茂勝 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
医事委員会の維持・強化	医事委員会の開催(ハイブリッド開催)	委員会内 各部会の充実	専門部会数・各人数	2回/年
JSPOスポーツドクター代表者会議	セーリング連盟代表スポーツドクターとして出席	JSPO加盟団体スポーツドクターと情報共有および連携におけるセーリングサポートの充実	各都道府県および中央競技団体より各代表参加1名(総数120名)	1回/年以上
公認医学・パラメディカル資格の推薦・取得の推進	公認スポーツドクター・公認スポーツデンティスト・公認スポーツファーマシー・公認スポーツ栄養士・公認アスレティックトレーナー養成講習会受講のJ-SPOへの推薦及び更新の手続き資格取得	委員の専門資格の取得	各資格推薦・取得人数	適宜
競技会(国際大会・国内大会)における安全体制の確保	競技会(国際大会・国内大会)における安全体制の指導・助言・帯同	医事委員の派遣・Line等による助言	派遣回数・助言数	通年
オリンピック強化選手の疾病・外傷等の対応	オリンピック強化委員会との連携	疾病・外傷等の対策(Line等による助言を含む)	相談件数	通年
合宿・大会・HOPE事業のサポート	合宿・大会・HOPE事業におけるサポート(トレーナーサポート等)	医事委員会各専門部会およびAD小委員会と連携し、円滑な選手サポートを行う	派遣回数・助言数	適宜
女性アスリートのフェムケアと健康管理	競技団体(他の競技を含む)の有識者・オリンピックを招待しての講演会の開催	女性セーラーの環境改善・女性セーリング関係者の普及改善	講演会数・各人数	1回/年以上
愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会セーリング競技の医療支援	愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会セーリング競技の医療チームにおいて医師、看護師の招集と医療	セーリング選手への医療サポート	医療実施件数	2026年9月23日(水)～10月3日(土)

【 国民スポーツ大会 】委員会 委員長【 黒川 重男 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
国民スポーツ大会開催事業	<p>○第79回国民スポーツ大会セーリング競技（青森県むつ市）への中央競技役員の派遣及び主催団体として大会運営</p> <p>○第80回国民スポーツ大会セーリング競技リハーサル大会（宮崎県日南市）への中央競技役員の派遣及び大会運営</p> <p>○主催団体（むつ市、日南市）との施設整備、大会運営、式典等の調整・協議</p> <p>○一般の認知・関心の向上に向けた「見える国スポ・見せる国スポ」推進のためのレース中継等イベント事業の推進</p> <p>○開催地でのセーリングスポーツの普及推進</p> <p>○国スポ参加資格の審査</p> <p>○総合成績の算出</p> <p>○日本スポーツ協会（JSPO）との連絡・調整</p>	<p>○円滑な国スポ運営への開催地支援</p> <p>○一般市民等への認知度の向上</p> <p>○開催地におけるセーリング競技の普及</p>	<p>○第80回国スポ（青森県むつ市）</p> <p>参加艇数 330艇</p> <p>参加選手、監督数 550人</p> <p>中央競技役員派遣 30人</p> <p>○第81回国スポリハーサル大会（宮崎県日南市）</p> <p>中央競技役員 25名</p>	<p>2026年8月～</p> <p>2026年9月</p>
国民スポーツ大会開催準備支援事業	<p>○円滑な大会運営のため協議及びJSAF関係委員会との調整目的とした国スポ委員会開催</p> <p>○開催予定地の実行委員会・セーリング連盟及びJSAF関係委員会による準備状況の確認等を目的とした国スポ研修会の開催</p> <p>○開催地実行委員会及びセーリング連盟との調整・協議・指導</p> <p>○国スポ開催予定地の中央競技団体正規視察及び指導・助言</p> <p>○開催予定地の国スポ開催準備への支援</p>	<p>○円滑な国スポ開催のための準備に関する開催地実行委員会・セーリング連盟の支援</p> <p>○国スポ開催基準に沿った開催地の選定</p> <p>○国スポ運営方針に沿った大会品質の確保</p>	<p>○国スポ委員会開催2回（6月、1月）</p> <p>○国スポ研修会1回（1月）</p> <p>○中央競技団体正規視察2回（奈良県、山梨県、時期未定）</p>	<p>2026年4月～</p> <p>2027年3月</p>
国民スポーツ大会開催関連事業	国民スポーツ大会において、観客にわかりやすく見せるためのセールに貼付する県名・県番号の販売斡旋	○「見える国スポ」、「見せる国スポ」の推進	<p>○県名シール販売 120枚</p> <p>県○番号シール販売 120枚</p>	<p>2026年</p> <p>7月～9月</p>

【 普及 】委員会 委員長【 佐藤 公俊 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
海その愛プロジェクト	全国キャラバン（体験導入）実施 子どもが海へアクセスできない地域、または入口が失われた地域に体験を届ける。2026年度は3地域程度で実施	ジュニア・ユースセーラーをメインに新たなセーリングファン層の拡大	参加者90名	<p>2026年4月</p> <p>～</p> <p>2027年3月</p>
新たなセーリングレースの構築	ジュニア・ユース・大学生を中心に参加者全員が楽しめるレーススタイルの企画作成	新たなセーリングファン層の拡大及びセーリング技術の向上	新たなセーリングレースの企画作成・周知	<p>2026年4月</p> <p>～</p> <p>2027年3月</p>

【 育成 】委員会 委員長【 中村 公俊 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
ジュニアユースセーリング・シーマンシップ	テキストの発行及び配布	海やセーリングへの興味関心の拡大	配布数500部	通年
	アカデミーコーチバンクの構築	人材の育成及び活用	新規登録者3名以上	通年
	アカデミーコーチの派遣	シーマンシップの啓発及び経験の共有	全国15か所へのコーチ派遣	通年
	コーチングセミナーの開催	シーマンシップやコーチングノウハウの流布	全国から10名程度の指導者の参加	

【 オリンピック強化 】委員会 委員長【 宮本 貴文 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
強化対象選手(NT-S/NT-A/NT選手)の海外大会派遣	海外主要大会(Princess Sofia杯、種目別世界選手権、種目別欧州選手権他)への派遣とオリ強コーチ・スタッフによるサポートの実施	LA2028大会での連続メダル獲得(470クラス)、1種目以上の入賞	各大会の成績、遠征報告書	大会開催日程の通り
強化対象選手(NT-S/NT-A/NT選手)に対する強化合宿・サポートの実施	NT-S/NT-A/NT各チームが抱える調整課題にフォーカスしたチーム特化型の強化合宿、各種サポートを実施		各大会の成績、合宿レポート	随時
LA2028大会に向けた「LA2028メダル獲得PT」の設置、現地情報入手	LA2028大会の準備組織として「LA2028メダル獲得PT」を立ち上げ。現地の視察や現地有識者との協議を通じて、各種準備を開始する		各種レポート等	随時
HOPE育成プログラムの実施とアップデート	HOPE選手を対象とした、セーリングスキル及び人間力の向上を目的としたHOPE育成プログラムを実施(詳細別紙ご参照)	次世代有力選手の継続的な輩出。LA2028/Brisben2032を見据え継続的な選手強化を行う。Sailing Youth World/Jr. Worldsでの金メダル獲得を中長期目標に据え、2026年度はSailing Youth World/Jr. Worldsでの複数種目の入賞を短期目標とする	各大会の成績、合宿レポート	1週間～10日/月
強化対象選手(HOPE選手)の海外大会派遣	HOPE選手の海外主要大会(Princess Sofia杯、Sailing Youth World/Jr. World等)への派遣		各大会の成績、遠征報告書	大会開催日程の通り
強化対象選手(HOPE選手)の個別合宿・大会での指導等実施	選手別の強化計画の策定と進捗状況の確認を都度実施し、個人の状況に応じて個別合宿や参加する大会での個別指導を実施		各大会の成績、遠征報告書	大会開催日程の通り
強化対象選手(Next-NT/海外派遣選手)の海外大会派遣	Next-NT/海外派遣選手の海外主要大会(Princess Sofia杯、種目別世界選手権他)への派遣	NT選手層の拡大、各艇種の国内競争力の強化	各大会の成績、遠征報告書	大会開催日程の通り
強化対象選手(Next-NT/海外派遣選手)の個別合宿の実施	Next-NT/海外派遣選手とHOPE選手をタイアップした国内種目別合宿の実施		合宿レポート等	随時
2026アジア大会対応(2026年9月～10月)	2026アジア大会への代表チーム派遣を実施し、目標値を達成する	アジア大会でのメダル獲得 【目標値】金3、銀1、銅7 オリンピック種目：金2、銀1、銅2 ユース種目：金1、銅5	大会の成績、大会レポート	随時(速やかに)
2027Sailing World Championships(シングルハンド)大会対応(2027年1月)	2027Sailing World Championships(シングルハンド)大会への代表チーム派遣を実施し、目標値を達成する	【目標値】 各種目において前回大会(2023 Sailing World Championships)を上回る成績%を日本チームとして獲得 【2023実績】 ILCA7：39.1%(54/138位)、ILCA6：47.7%(52/109位)、iQFOiL男子：48.3%(45/93位)、iQFOiL女子：48.8%(43/88位)、Formula Kite男子：86.9%(73/84位)	大会の成績、大会レポート	随時(速やかに)
NTC・各強化拠点との連携強化	HOPE育成プログラムを始め、HOPE選手を対象とした各種強化合宿の実施を通して、NTC及び各強化拠点との連携を深める	各自治体の補助金等を活用した各拠点の機材等の充実 各地域における競技普及・認知度向上への貢献、及び各地域の人材活用	合宿レポート、各種報道等	随時
練習用(HOPE育成プログラム用)機材の充実	各強化拠点自治体等と密接に連携し、競技艇・コーチボートその他の海上練習機材の充実を図る	持続的かつ発展的な次世代育成・強化プログラムの遂行	使用(借用を含む)可能な競技艇・コーチボート艇数	随時
強化スタッフの充実	HOPE育成プログラムを通して外部コーチ、トレーナー、栄養、メンタル、ルール、修理等の各分野のスタッフについて、更なる拡充を行う		強化スタッフ(外部コーチ/トレーナー/管理栄養士・調理師/メンタルトレーナー/ルールスタッフ/修理スタッフ他)の期末(実働)人数	随時
海上・陸上における艇種別での各種数値の計測・データアーカイブ化	競技/種目特性に着目した各種海上練習・フィジカルメニューの開発・設定とデータの積み上げ	科学的知見の積み上げ・分析による合理的な強化施策の実行	One TAP SPORTsへの登録データ内容 海上練習にフォーカスした各種トレーニングデバイス	随時

事務局機能の強化	事務局業務内容の再整理を実施、手薄な業務分野についての体制の再構築を行うとともに、属人化している業務の棚卸し・マニュアル化を推進(詳細別紙ご参照)	持続可能なバックオフィス体制の構築	新規人材数、事務局業務に関する組織図・ジョブディスクリプション、業務マニュアル	随時
オリンピック強化コンテンツを活用したマネタイズ施策の立案・実行	JSAF強化スポンサーの獲得、既存スポンサーとのアクティベーション活動の実施、有望選手とスポンサー候補者とのマッチング機会の創出等	助成金や選手自前の活動資金のみに頼らない、資金的に多様性を持った強靱な強化体制の構築	スポンサー数、スポンサー内容、選手マッチング数、アクティベーションの活動報告他	随時
強化教材の共有、HOPE育成プログラムへの外部指導者受け入れ等による強化メソッドの外部還元	HOPE育成プログラムで実施する各種講習資料のウェブサイトでの公開や合宿への外部指導者の受入れを実施し、強化メソッドの横展開を図る	セーリング界全体、特に指導者層におけるレベルアップ・持続的発展への貢献	ウェブサイトアップされる教材数、HOPE育成プログラムに参加した外部指導者数	随時

【 キールボート強化 】委員会 委員長【 久保田 悟 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
大学対抗&U25ヨットマッチレース開催	2027年大学対抗&U25ヨットマッチレースの開催に向け	ユース世代のキールボート競技者の維持拡大	参加選手60名、参加ボランティアスタッフ15名	2027年3月
チームレース世界選手権へのJSAF代表チーム	2026年チームレース世界選手権(スウェーデンGamla Sta	チームレースの選手強化	3位入賞	2026年8月
グローバルチームレースレガッタへのJSAF代表	2026年グローバルチームレースレガッタ(英国Royal Yac	チームレースの選手強化	3位入賞	2026年9月
NYYC国際女子選手権の動向調査	次回大会でのJSAF代表チーム派遣に向けて2026年NYYC	女子やユース世代のキールボート競技力の強化	レポート	2026年
FISU世界大学選手権への日本代表チーム	2026年FISUセーリング世界大学選手権(開催未定)に日本	ユース世代のキールボート競技力の強化	3位入賞	開催未定

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
事業1：セーリング競技指導者育成	①指導者講習会プログラム策定/改善	指導者のスキル向上、現場での実践率向上	受講者アンケート評価	-
	①-1.コーチ2-1専門科目講習会プログラム改定			4-6月
	①-2.コーチ2-2専門科目講習会プログラム改定			6-12月
	①-3.コーチ更新講習会プログラム改定			4-5月
	②指導者講習会の開催実施	資格保有指導者の維持/拡大	修了者人数 & 次年度指導者資格保有数	コース1岩手：9/26-27
	②-1.コーチ2専門科目講習会開催			コース1岩手：10/24-25
	②-2.コーチ2専門科目講習会開催			コース2福岡：12/19-20
	②-3.コーチ更新講習会開催			コース2福岡：1/23-24 第1回:5/30(土) 17:30-21:00 第2回:12/12(土) 9:00-13:00
	③-1.コーチ2/3共通科目講習会へのコーチデベロッパー	コーチデベロッパーのスキル向上	派遣人数 & 派遣回数	6-11月
	④既存指導者資格保有者の維持	資格保有指導者の維持/拡大	当年度指導者資格保有数	-
	④-1.資格更新対象者への更新講習受講期限案内			3月/9月/11月
	④-2.資格保有者リスト管理と会員管理システムへの反映	JSAF会員数の維持拡大	指導者資格保有者の 当年度会員数	4-3月
	④-3.資格保有者の会費支払依頼と登録確認			3-5月
	④-4.JOCコーチアカデミー受講者の募集と推薦連携			4-3月
	⑤コーチング活動支援のための情報提供	ジュニアユース層のセーラー & 指導者の スキル向上	掲載サイト参照数	-
	⑤-1.指導者向けコーチング教材の企画開発(級レベル)			4-6月
	⑤-2.指導者向けコーチング教材の展開(級レベル)		6-3月	
		事故数の低減	掲載サイト参照数	-
	⑥-1.事故/ヒアリハット情報の収集と展開			4-3月
	⑥-2.レスキュー艇の操船ガイド等の開発(中級レベル)			4-3月
⑥-3.安全情報の収集展開	4-3月			
⑥-4.練習時の危機管理チェックリスト展開と普及	4-3月			
事業2：安全情報の管理と指導	⑦バッジテスト事業の推進	資格保有数の拡大	報告による 検定実施数と受講者数	-
	⑦-1.バッジテスト実施状況管理			4-3月
	⑦-2.バッジテスト認定者管理			4-3月
	⑦-3.バッジテスト検定者管理			4-6月
	⑦-4.バッジテスト規定改訂			4-11月
	⑧初心者指導方法(WSLTS)展開事業			
事業3：組織体制強化、および活性化支援		委員会メンバー参画意欲向上	参画意欲評価	-
	⑨-1.委員会内人材育成と活性化			4-3月
	⑨-2.国際人養成アカデミーへの人材派遣			5-6月
	⑨-3.委員会外への支援			4-3月

【 eSailing 】委員会 委員長【 尾形 依子 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
JVRICとの連携	各種イベントでの連携	普及・強化。特に女性プレイヤーの拡大	Steering the Course・eswc(世界選手権)でのセ	通年
eSailing練習会・体験会（PR・普及事業）	オープンエントリー練習会	体験、練習機会の提供、ツールとしての紹介	参加者：1回最大20名×3レース	通年
全日本（Japan cap）開催・運営（普及）	全日本（Japan cap）開催・運営	日本でのハイレベルな大会開催	参加者60名	2026年8月
ネーションズカップ支援（普及・強化事業）	ネーションズカップ支援・選手の活躍配信、紹介による	世界大会での活躍紹介と活動支援	3位以上を目指す	2026年11月
ポートショー	ポートショー体験会実施	新たなセーリングファン層の拡大	JSAFブースに立ち寄ったか方へのPRと1回10名程	2027年3月

【 アスリート 】委員会 委員長【 吉田 愛 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
ポートショー	JSAFブースでの講習会	トップ選手との交流による知見拡大・集客	参加者100名	2026年3月
各種目、カテゴリーのトップ選手の意見	HOPE合宿	トップ選手との交流による知見拡大	参加者30名	2026年
インクルーシブセーリングの選手の強化	セーリングパートナーとして練習に参加	インクルーシブ世界選手権でのメダル獲得・選手強化	世界選手権の順位	2026年
アジア競技大会での船内解説	一般客向けクルーズ船内でのセーリング競技解説	セーリングを知らない方へ競技の説明、見所等の解説	参加者100名	2026年

【 アンチ・ドーピング 】委員会 委員長【 矢部 信成 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
ドーピング防止啓発活動推進事業				
ドーピング防止啓発活動推進事業				
ドーピング防止啓発活動推進事業				
ドーピング検査（NF-rep）事業				

【 外洋常任 】委員会 委員長【 船澤 泰隆 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
セールナンバー普及拡大事業	外洋艇のセールナンバーの適用範囲を広げ、組織の拡大強化に資する。	セーリング愛好者を増やし、組織の拡大強化に資する	セールナンバー取得艇数	
	セールナンバー普及拡大に合わせ、各地のヨットクラブや泊地での安全・ルール関係の活動を支援する	全国各地でのセーリングの安全、ルール順守の強化をはかる	開催実績	
オフショアレース支援と世界選手権派遣	2032プリズベン五輪を目指し世界選手権に選手を派遣する。(国内選考レース開催を含む)	2032五輪を狙える選手の育成強化	派遣実績	
	JSAF共同主催の外洋レースを支援し、世界レベルのレース開催と世界で戦える選手を育成する	2032五輪や世界選手権、世界レベルの外洋レースで活躍できる選手を育成していく	開催実績、	
	2032プリズベン五輪での外洋レース復活に向けて、World Sailingの外洋アドバイザーボードとの連絡強化を図る	World Sailingの2032プリズベン五輪外洋レース復活に向けての世界戦略づくりへの参加を図る	連絡調整状況	
	2032プリズベン五輪での外洋レース復活に向けて多くの外洋レースに、ダブルハンド・デビジョンを設定していく。	World Sailingの2032プリズベン五輪外洋レース復活に向けての世界戦略と共同歩調をとる	全日本からクラブレースレベルまでのダブルハンドレース開催数	
	オフショアレースのための資格取得、サバイバルトレーニングなどのトレーニング、通信基盤などの整備、促進、実施を進める。	世界レベルの選手育成のためのスキル向上		
加盟団体・特別加盟団体等との関係強化	外洋加盟団体長会議を年2回開催し、意思疎通を強化する	加盟団体との意思疎通、連携強化をはかる	会議実績	
	外洋常任委員会を開催する。(年7回程度)	外洋系各組織との意思疎通、連携強化をはかる	会議実績	
	外洋艇の技術系部門の強化を図るため、外洋合同委員会会議を支援する。	レース運営、ルール、安全、計測等技術的レベルを全国的に向上させていく	会議実績	
	ヨットクラブ、泊地のグループ等との連携	ヨットクラブ等との連絡・連携の強化を図る	連絡実績	
外洋艇の安全確保、事故対策、法制度の	外洋艇の安全確保、安全情報の交換、救助関係組織との	外洋レース、外洋セーリングの安全を強化していく		
	ヨットに合わない法制度の改善を関係省庁・関係機関に	船舶検査、免許制度、通信等をヨットに合うよう改善するための活動	活動実績	
	レースでの安全確保の指導			
	サバイバルトレーニング、医療トレーニングの推進	外洋セーラーの安全確保のためのスキル向上	開催実績、	
	万が一のための主催者保険加入	レース主催の安全確保		

【 外洋計測 】委員会 委員長【 川合 紀行 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
レーティング証書発行	<ul style="list-style-type: none"> ・ IRC/ORCの計測の実施 ・ 提出された計測データの確認、必要に応じて問い合わせ・修正 ・ IRCデータのRORCへの送付、証書データの受取・内容確認 ・ ORC証書の作成・内容確認 ・ 証書の発送 	レーティング証書の適正化	証書発行枚数IRC285枚、ORC45枚	通年
証書発行データ管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 証書データの整理、データ・ストレージの管理 ・ 証書受付、管理表作成、請求書発行、再請求発行 	データ資産の保全と利活用性の向上	再請求チェック3回/年	通年
レーティングシステム普及	<ul style="list-style-type: none"> ・ レーティングの適正な運用のため、IRC/ORCのセミナーの実施 ・ 合同居委員会会議を共同開催し、最新情報の周知を行う ・ 各レースのテクニカルコミッティへの協力等の支援 	公式レーティングのレースの普及と質の向上	合同委員会での周知、TC派遣	通年
規則等の管理・運用	<ul style="list-style-type: none"> ・ HPの管理、適時更新 	会員の最新情報へのアクセス向上	日本語版規則、2027年料金表、HP更新	通年
計測機器の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重量計等の委員会所有の計測機器使用の受付管理、配送 ・ 定期的なキャリブレーションの実施 	機器の精度維持	キャリブレーション1回/年	通年
計測技術の継承	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計測実技のレベルの維持・向上ための講習会の開催 ・ 計測実技のノウハウの資料化（画像や文書） 	計測精度の向上	計測実技講習会の実施	2027年2～3月
国際会議への派遣	<ul style="list-style-type: none"> ・ ORCコンGRESへの委員の派遣 ・ IRCコンGRESへの委員の派遣 	国際標準への適応	会議報告書	2026年10月
外洋計測委員会会議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外洋計測委員会会議の開催 ・ レーティングに関する解釈・解説の通知文等の作成 	国内での運用上の課題の解決	会議録、各通知文	通年

【 外洋安全 】委員会 委員長【 平出 篤志 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
事業1) 委員会基本活動				
委員会会議	委員会運営および以下事業の実施に関わる議論と方針	OSRへの理解、安全規則の普及促進	議事録	通年
WEBサイトの維持・管理	委員会WEBサイトにOSR改訂や安全週間およびその他の	OSRへの理解、安全規則の普及促進	WEBサイトコンテンツ・閲覧数	通年
事業2) 外洋特別規定 (Offshore Special Regulations: OSR) 普及				
1. OSR国内規定制定	国内規定策定	OSRへの理解、安全規則の普及促進		必要に応じて
2.OSR解説講習会	OSR解説講習会の実施および講師派遣	OSRへの理解、安全規則の普及促進	受講者数	2月要請に応じて
3.OSR解説	SNSなどを利用したOSRの内容解説	OSRへの理解、安全規則の普及促進	SNSフォロワー数	通年
事業3) 安全航行啓蒙				
1.安全週間	安全週間を春と秋の2回/年設け、忘れがちな点検整備や	事故防止、安全航行に対する意識の向上	事故発生件数	2026年4、10月
2.安全講習会への講師派遣	加盟団体からの依頼に応じて安全講習会へ講師を派遣	事故防止、安全航行に対する意識の向上	受講者数	要請に応じて
3.安全航行に関わる諸法令の改正のため	国内未認可の装備品や無線機器などを日本国内でも使用	セーラーの安全性の向上や活動費用の低減	—	通年
4.「全国海難防止強調運動」の実行委員	日本海難防止協会主催の「全国海難防止強調運動」の実	船舶安全航行に関わる情報収集および発信	—	通年
5.事故報告書	外洋艇関係の事故数や事故の内容を集計・分析、事故防	船舶安全航行に関わる情報収集および発信	—	通年
事業4) 外洋団体長会議・合同委員会				
外洋団体長会議	外洋レースの運営・計測・安全に関わる情報収集および	外洋レースの運営・計測・安全に関わる情報収集および発信	—	2026年9月
外洋合同委員会会議	外洋レースの運営・計測・安全に関わる規則のポイント	外洋レースの全国均一化とレース主催者（加盟団体）のスキル向上	—	2027年2月

【 通信 】委員会 委員長【 坂口 城治 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
海岸局維持事業	既存のJSAF海岸局の今後の海岸局のあり方の提言を策定	海岸局の今後数年間の運営方針を策定	運営方針計画	通年
海岸局維持事業	VHF無線局免許状更新時の海岸局加入証の取り扱い方法について、関連する地方総合通信局と協議し、手順を改善	無線局免許更新時の海岸局加入証更新の促進	海岸局加入証更新実績の比率向上	通年
オフショアレース支援事業	JSAF共同主催の外洋レースの通信環境およびレーストラッキング環境の整備を支援	世界レベルの外洋レースを運用する通信環境の知見の獲得	開催実績	通年
外洋艇の安全確保、事故対策、法制度の適正化の推進	外洋艇の安全確保、プレジャーボート系の無線局との安全情報の交換、海上特殊無線技士免許の啓蒙	外洋レース、外洋セーリングの安全を強化していく	開催実績	通年
外洋艇の安全確保、事故対策、法制度の適正化の推進	日本国内外の海上通信環境の最新情報をメーカーを含め取得し、日本のみの規制やヨットに合わない法制度の改善を関係省庁・関係機関に要望	通信環境をヨットに合うよう改善するための活動	開催実績	通年

【 アメリカズカップ 】委員会 委員長【 植松 眞 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期

【 ジャパンカップ 】委員会 委員長【 中澤 信夫 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期

【 パラセーリング 】委員会 委員長【 佐藤 公俊 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
インクルーシブ全日本大会	インクルーシブセーリングにおける国内のランキング対応全日本大会。次年度のパラセーリング強化選手の選考レースを兼ねる	国内普及および次年度強化選手選考レースの位置づけ	東京都・若洲で開催・参加者27人	10/16,17,18
インクルーシブ東日本大会	インクルーシブによる東日本地域での大会	国内（地域）大会開催による技術力向上促進と普及	山形県・徳良湖で開催・参加者20人	6/20,21
インクルーシブ西日本大会	インクルーシブによる西日本地域での大会	国内（地域）大会開催による技術力向上促進と普及	大分県・別府市で開催・参加者25人	7/18,19
指導者育成講習会	パラセーリングの取り組み・インクルーシブの理念・国際大会の心構え・技術・ルール等を網羅したセミナーを各分野のトップコーチを迎えて学ぶ	全国各地域でインクルーシブ理念を理解し、安全性や技術を持った指導者を育成して普及につなげる	広島県・広島市で開催・参加者20人	11月中
全日本ブラインドセーリング選手権	4人制ブラインドセーリングによる国内公式レース	ブラインドセーリングの普及およびブラインドセーラーの技術力向上促進	神奈川県・葉山町で開催・参加者20人	8/22,23
国際大会派遣	WSの主催する国際大会へのチーム派遣	国外での日本チームの認知度向上及び強化選手のセーリング技術向上	派遣人数・レース成績	9～10月中
国内強化合宿	強化選手の競技力向上を目的とした合宿の開催	強化選手の競技力向上	参加人数・参加者満足度による評価	5～8月中
全日本大会に紐づく国内クラス分け	専門医師による障がい者セーラーの国内クラス分け実施	日本国内でのクラス分けの機会を増やし、選手強化に向けた戦略的パスウェイの構築を目指す	-	10/16
広報活動	インクルーシブセーリングの広報素材撮影作成・広報宣伝用資料作成配布	インクルーシブセーリングをビジュアル面でアピール（スポンサー企業含む）	HPフォロワー数500人増・スポンサー企業獲得	4～8月中
インクルーシブセーリングキャラバン事業	ハンザヨットの体験試乗会、2か所で開催	障がい者・子供のセーリングファン層拡大	鳥取境港・鹿児島で開催・参加者80人	5,7月
パラセーリング普及推進事業	ハンザ・クルーザーを利用したパラセーリング（ブラインドセーリング）体験会・交流レガッタ、6か所で開催	パラセーリング普及推進	東京、神奈川、函館、宮城、岩手、高松で開催、参加者240人	6～11月中

【 経営企画（協賛） 】委員会 副委員長【 久保田 悟 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
既存協賛企業のフォロー	明治安田生命、ロート製薬、ヤンマー様、J-Will様のPR	協賛企業とJSAFアセットの活用	協賛の継続	年間
協賛企業対応委員会との連携強化	重複排除、窓口一本化検討	JSAF人的資本の効率化	協賛の継続	年間
『日本の海を未来に繋げる』開催支援	環境委員会と明治安田生命と小学生70人のセーリング	協賛企業明治安田生命のブランディング	参加者の満足	2026年5月
J-sailingへの協賛企業広告掲載	広報委員会との連携（明治安田生命1ページ掲載フォロー）	協賛企業明治安田生命のブランディング	明治安田生命内での評価獲得	2026年春
SNSメディア立ち上げ検討	普及委員会、広報委員会などと連携して模索	セーリングの普及、広告収入の獲得	協賛企業、賛助会員の拡大	年間
賛助会員との関係強化	現在、JSAF事務局で行なっている賛助会員とのコミュニケーション	賛助会員の増加と安定	賛助会員の増加と安定	年間

【 経営企画（JSC国際大会開催助成、アジア大会統括協賛） 】委員会 副委員長【 中村 和哉 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
国際大会運営資金マネジメント支援	2026年テザークラス世界選手権の開催支援	多くの海外選手の参加を得て、生涯スポーツとしてのセーリングの活性化を推進し、セーリング文化の発展に寄与する。	参加100チーム/参加者200名 海外からの参加5か国20チーム	2026年6月

【 経営企画（経営戦略） 】委員会 副委員長【 船澤 泰隆 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期

【 経営企画（See Sports検討） 】委員会 副委員長 【 宮野 幹弘 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期
ラジコンヨットの全日本配信	ラジコンヨットで実施されている全日本およびそれに準ずる大会で	セーリングへの興味を持ってもらう	来場者数200人	2026年調整中
セーリング競技全日本の録画配信	470、ILCA他種目の全日本の録画配信への協力及びサポ	セーリングの魅力を伝える	DVDやYouTubeでの映像保存	2026年調整中

【 経営企画（ボランティア管理活用） 】委員会 副委員長 【 富田 三和子 】

事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期